

2007年5月20日 岐阜県 岐阜市

山で遭難する人の3割以上が、道迷いによる遭難である。オリエンテーリングの世界では当たり前前の読図技術も登山の世界では、指導法も確立していない。

アウトドアの安全に貢献しつつ、オリエンテーリングの普及にもつながる読図講習会に、岐阜県オリエンテーリング協会が取り組んだ。

ナビゲーション技術に関心

岐阜県オリエンテーリング協会では、5月20日(日)10時~16時、岐阜市三田洞「ふれあいの森」において、初心者を対象とした「はじめてのコンパスと地図読み」講習会を開催しました。

参加者募集案内をアウトドアショップに置いたり、新聞及びフリーペーパーのイベント欄に掲載をお願いしたり、ホームページへの掲載などにより21名の参加となりました。

年間1500件以上発生する山岳遭難事故のうち第1位は道迷いで、多くの人々が山で道に迷い、不安な思いをしていることを物語っています。講習会では、オリエンテーリングのナビゲーション技術を利用して道に迷わないための地図読み及びコンパスワークを学んで頂きました。

午前中は講義が主体で、「山岳遭難事故の現状」「ナビゲーションの読図」「地図に親しむ」「等高線のマスター」「地図から風景」等、プロジェクターを使用しての講義。「ナビゲーションの読図」では、「現在地の把握」「ルート維持」「ルートプラン」などの読図ポイントを学習。「地図に親しむ」では、特徴物の見方、等高線から傾斜の緩急、尾根及び谷の把握等を学習していただきました。



まずは屋内で、基本的な講義

天候にも恵まれた午後の実習では、整置、歩測を体験後に、事前に設定した「ふれあいの森」内ルート歩き、講義にて学習した特徴物などによる現在地把握、等高線から読み取る周りの地形、ルートプラン、尾根と谷の確認を学習。そして、ひとりでミニオリエンテーリングを体験していただきました。

今回の参加者は、年齢が22歳から70歳と幅ひろく、愛知・岐阜・三重からの参加者があり、とても協力的なアウトドアショップがあることもわかり、中高年登山者の増加と事故の多発がある反面このような講習会がないこと、逆にこのような講習会の必要性・需要があることに驚きの面もありました。

今回の参加者の中には、等高線の見方やおろか、地図記号自体がわからない参加者がいる反面、「はじめての」と講習会タイトルにつけているものの、この講習会以上の中級講習会の要望を出される方もいらっしゃいました。また、オリエンテーリングそのものを初めて知り、面白いので大会に参加してみたいという人もあり、オリエンテーリングのナビゲーション技術を覚えて頂くとともに、オリエンテーリングそのものをPRできる良い場と考えます。(オリエンテーリング人口を増やす場の一つかも!?)



屋外の実技で読図のポイントの指導を受ける参加者



仕上げのミニオリエンテーリング
ミニオリエンテーリングは、読図のトレ

ニングとして最適の活動であり、同時にオリエンテーリングの宣伝にもなる。



ミニオリエンテーリング後はプロジェクターで地図を写しながらの反省会

このような講習会をはじめて開催しましたが、講義内容について、参加者のレベルに合わせ、講義内容や講義順など手直しする事により、オリエンテーリングの技術を利用した、より講習需要にあわせたものに手直ししていく事が必要だと感じました。

なお、本講習会を岐阜県で開催するにあたり、事前に静岡県にて開催された同様講習会(講師:村越氏等)に岐阜県OL協会より3名参加させて頂き、参考とさせて頂きました。この紙面をお借りし、御礼申し上げます。

本講習会参加者アンケートを実施しましたので、結果の一部を紹介いたします。

受講したためになった点、良かった点
・コンパスを使った山歩きがためになり、読図に興味を持った。
・地図読みの重要性が理解できた。原点に戻り、改めて学習できて良かった。

難しかった点
・地図から地形を読み取る事。等高線から読み取る尾根と谷の見方。ミニオリエンテーリング。

その他
・地図についてさらに詳しく学びたい。午後の実習は、色々な体験ができ良かった。
・ミニオリエンテーリングはもう少し長い距離に。講義は記号説明を先にやって欲しい。

(岐阜県 OL 協会 水野博司)